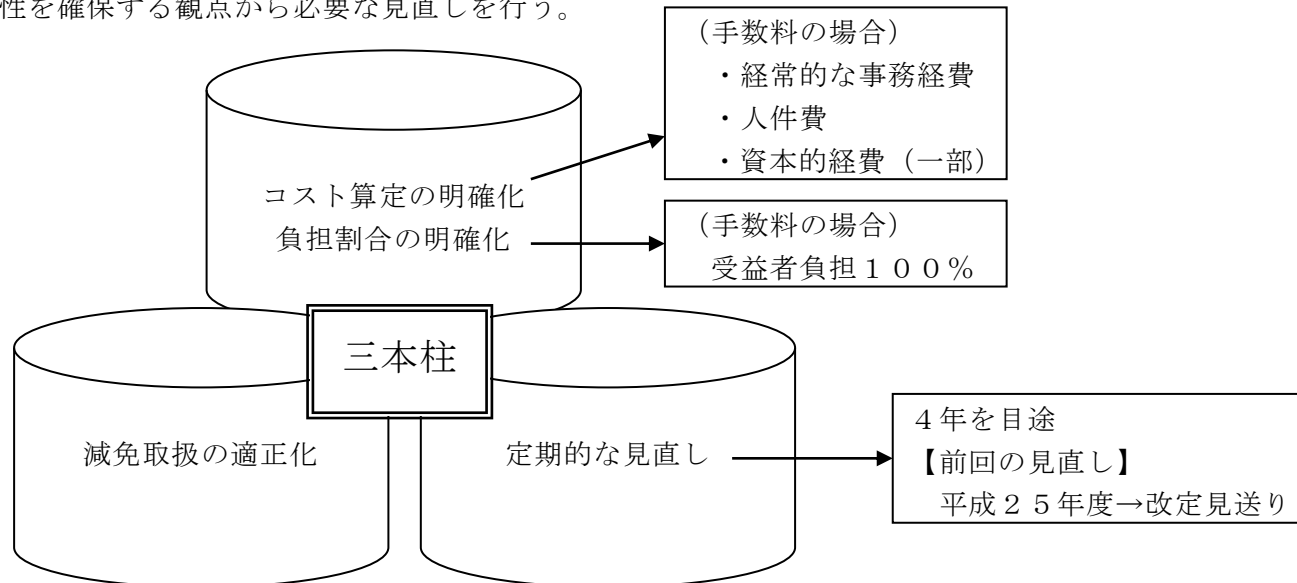


手数料の見直しについて

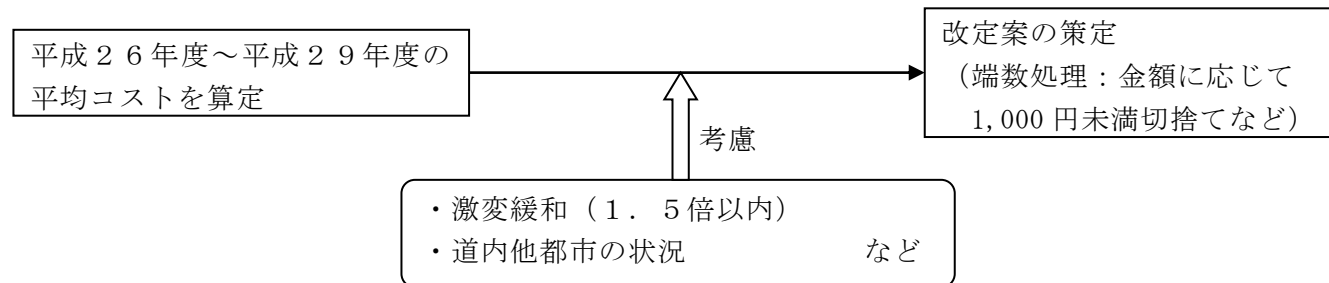
1 「受益と負担の適正化」へ向けた取組指針（改訂版）に基づく手数料の見直し作業について

(1) 取組指針（改訂版）の基本となる考え方

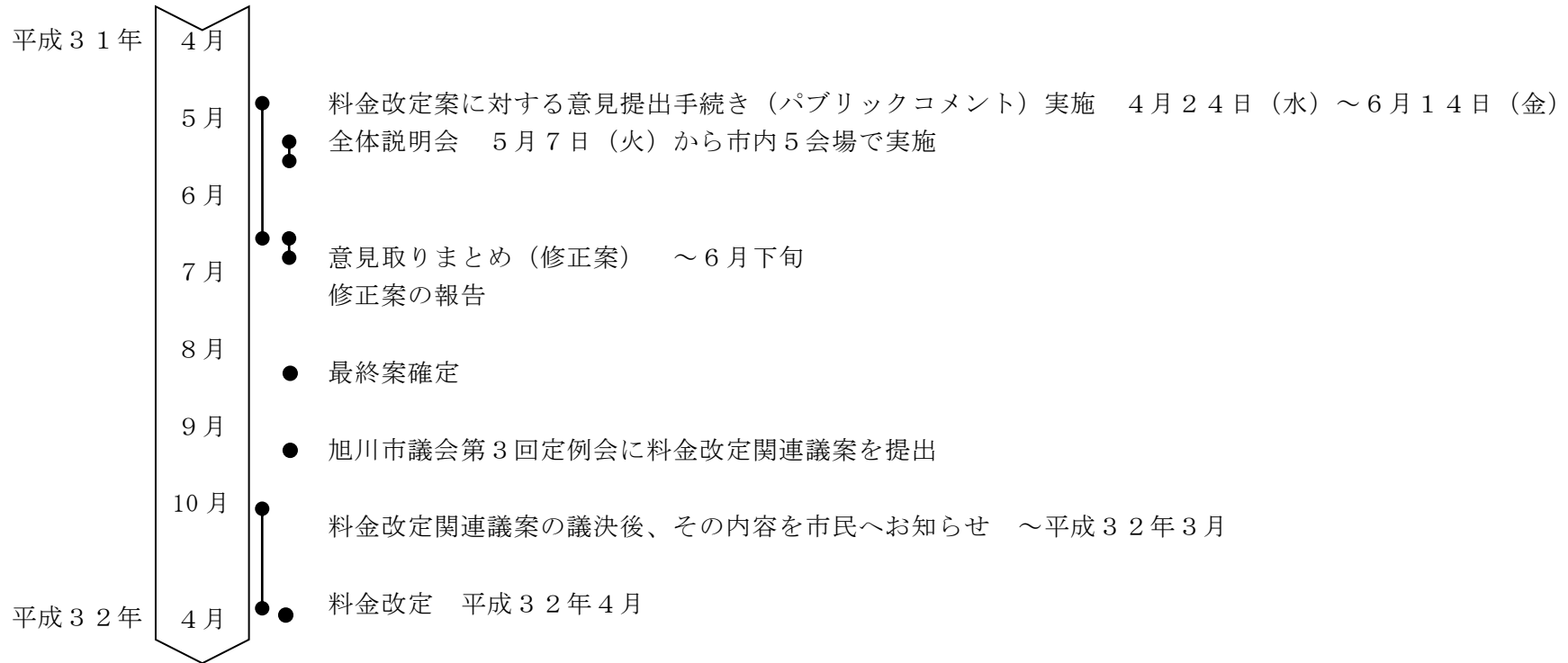
受益者負担の原則に基づき、受益者に対しその受益に応じた一定の負担を求めることにより、サービスを利用する者と利用しない者との負担の公平性を確保する観点から必要な見直しを行う。



(2) 改定案の考え方



(3) スケジュールの考え方



2 環境部所管手数料一覧

| | |
|-----------------------------|--------------------|
| 動物関係手数料 | |
| ・登録票（飼養登録）交付等手数料 | |
| 汚染土壌処理業者許可等関係手数料 | |
| ・汚染土壌処理業許可申請手数料 | ・汚染土壌処理業許可更新申請手数料 |
| ・汚染土壌処理業変更許可申請手数料 | ・汚染土壌処理業譲渡等承認申請手数料 |
| ・汚染土壌処理業合併等承認申請手数料 | ・汚染土壌処理業相続承認申請手数料 |
| 使用済自動車再資源化業者登録等関係手数料 | |
| ・引取業者登録等申請手数料 | ・フロン類回収業者登録等申請手数料 |

し尿・ごみ処理関係手数料

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・し尿処理手数料・ごみ処理手数料（家庭廃棄物）<ul style="list-style-type: none">ア 燃やせるごみ・燃やせないごみ<ul style="list-style-type: none">（ア）指定ごみ袋（５リットル～４０リットル）イ 粗大ごみ<ul style="list-style-type: none">（ア）軽量なものウ 特定家庭用機器の粗大ごみ・ごみ埋立処分手数料（１０キログラムまでごと） | <ul style="list-style-type: none">・し尿処理手数料（工事用仮設トイレ（加算））<ul style="list-style-type: none">（イ）指定ごみ袋によることが適当でないもの（イ）その他・ごみ焼却処分手数料（１０キログラムまでごと） |
|--|--|

廃棄物処理業者許可等関係手数料

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・一般廃棄物収集運搬業許可申請手数料・一般廃棄物処分業許可申請手数料・一般廃棄物収集運搬業変更許可申請手数料・一般廃棄物処理施設設置許可申請手数料<ul style="list-style-type: none">ア 法８－４規定施設（注１）・一般廃棄物処理施設変更許可申請手数料<ul style="list-style-type: none">ア 法８－４規定施設（注１）・一般廃棄物処理施設定期検査手数料・一般廃棄物処理施設熱回収施設設置者認定更新申請手数料・一般廃棄物処理施設設置者合併等認可申請手数料・産業廃棄物処理施設熱回収施設設置者認定申請手数料・産業廃棄物処理施設譲受け等許可申請手数料 | <ul style="list-style-type: none">・一般廃棄物収集運搬業許可更新申請手数料・一般廃棄物処分業許可更新申請手数料・一般廃棄物処分業変更許可申請手数料イ その他の施設イ その他の施設・一般廃棄物処理施設熱回収施設設置者認定申請手数料・一般廃棄物処理施設譲受け等許可申請手数料・産業廃棄物処理施設定期検査手数料・産業廃棄物処理施設熱回収施設設置者認定更新申請手数料・産業廃棄物処理施設設置者合併等認可申請手数料 |
|--|--|

浄化槽保守点検業者登録等関係手数料

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・浄化槽保守点検業登録申請手数料・浄化槽清掃業許可申請手数料 | <ul style="list-style-type: none">・浄化槽保守点検業更新登録申請手数料 |
|---|--|

（注１）「法８－４規定施設」とは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和４５年法律第１３７号）第８条第４項に規定される施設を指します。

3 見直しを行う手数料について（10件）

（1）汚染土壌処理業者許可等関係手数料

| 番号 | 名称等 | 現行料金 | 改定案（増減） | 増減率等 |
|----|-------------------|----------|-------------------|-------|
| 1 | 汚染土壌処理業許可申請手数料 | 206,000円 | 208,000円(+2,000円) | 1.01倍 |
| 2 | 汚染土壌処理業許可更新申請手数料 | 192,000円 | 195,000円(+3,000円) | 1.02倍 |
| 3 | 汚染土壌処理業変更許可申請手数料 | 188,000円 | 191,000円(+3,000円) | 1.02倍 |
| 4 | 汚染土壌処理業譲渡等承認申請手数料 | 103,000円 | 104,000円(+1,000円) | 1.01倍 |
| 5 | 汚染土壌処理業合併等承認申請手数料 | 103,000円 | 104,000円(+1,000円) | 1.01倍 |
| 6 | 汚染土壌処理業相続承認申請手数料 | 103,000円 | 104,000円(+1,000円) | 1.01倍 |

（2）し尿・ごみ処理関係手数料

| 番号 | 名称等 | 現行料金 | 改定案（増減） | 増減率等 | |
|----|------------------------|---------------------------|-----------------|--|---|
| 7 | し尿処理手数料 | 50リットル当たり ^(注2) | 300円 | 450円(+150円) | 1.50倍（コストを算定した結果は772円であったので激変緩和措置を適用） |
| 8 | | 工事用仮設トイレ（加算） | 1件当たり 1,000円 | 50リットル当たり ^(注2) 150円(-850~+500円 ^(注3)) ただし、550リットル以上は 1件当たり 1,500円(+500円) | 50リットル～500リットル 0.15倍～1.50倍 ^(注3) 550リットル以上 1.50倍 |
| 9 | ごみ埋立処分手数料（10キログラムまでごと） | 104円 | 156円(+52円) | 1.50倍（コストを算定した結果は225円であったので激変緩和措置を適用） | |
| 10 | ごみ焼却処分手数料（10キログラムまでごと） | 75円 | 83円(+8円) | 1.11倍 | |

（注2）し尿の総量が50リットルに満たない場合は50リットルとし、総量が50リットルを超える場合で50リットルに満たない端数がある場合はその端数は切捨てます。

（注3）料金は、総量が50リットルとなる場合に最少の150円（0.15倍）、総量が500リットルとなる場合に最大の1,500円（150円×500リットル÷50リットル）（1.50倍）となります。

し尿処理手数料の改定案について

【手数料改定の考え方】

総原価（廃棄物の収集・処理に要する経費）

総原価＝直接経費（人件費＋物件費＋減価償却費＋起債償還利子）＋管理部門費

「受益と負担の適正化」へ向けた取組指針（改訂版）

【手数料コストの対象範囲】

- ・サービス提供のための直接必要となる経費で、処理等に要する経常的な経費と人件費
- ・人件費は、手数料の徴収事務に係るものを計上
- ・ごみ処理手数料等は資本的経費（施設建設費等）を加味して受益者負担部分を考慮

【手数料コストの負担割合】

- ・手数料は原則受益者負担100%

対象コスト
（経常的事務経費＋人件費＋資本的経費）

過去の改定経過

控除要素の検討

加算要素の検討

【手数料コストの算定方法】

手数料コスト＝経常的事務経費＋人件費＋資本的経費－控除要素＋加算要素
（平成26年度から平成29年度までの決算額等で算定）

激変緩和措置
（改定前の1.5倍を上限）

他都市との均衡

【新・旭川市ごみ処理・生活排水
処理基本計画（改訂版）】の施策
・ごみの減量・資源化の推進
・適正な処理費用の設定

改定手数料
（受益者負担）

1 手数料改定の対象となる一般廃棄物と排出者

| 対象となる一般廃棄物 | 排出者 |
|------------|----------------------|
| くみ取り便所のし尿 | くみ取り便所を使用している市民又は事業者 |

2 手数料コストの算定

平成 26 年度から平成 29 年度までの需用費や業務委託料などの経常的事務経費，手数料の徴収事務に係る人件費，旭川市環境センターの減価償却費である資本的経費の合計から，し尿のくみ取りや処理に直接関係のない浄化槽汚泥処理費，改修工事分の減価償却費などを控除して算定したし尿処理手数料コストを表 1 に示す。

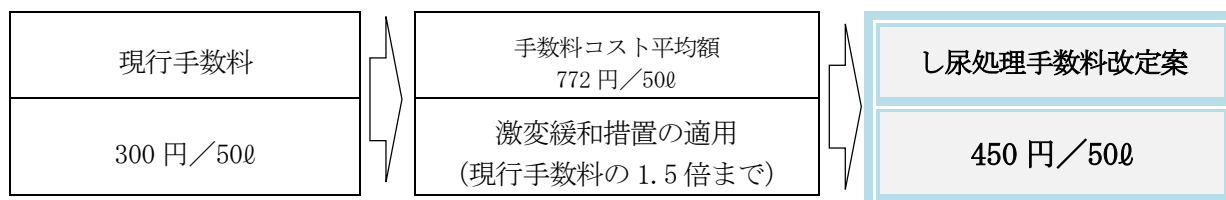
し尿処理量は減少傾向にあるが，し尿処理に掛かる手数料コストは増加傾向にある。

表 1 し尿処理量と手数料コストの推移

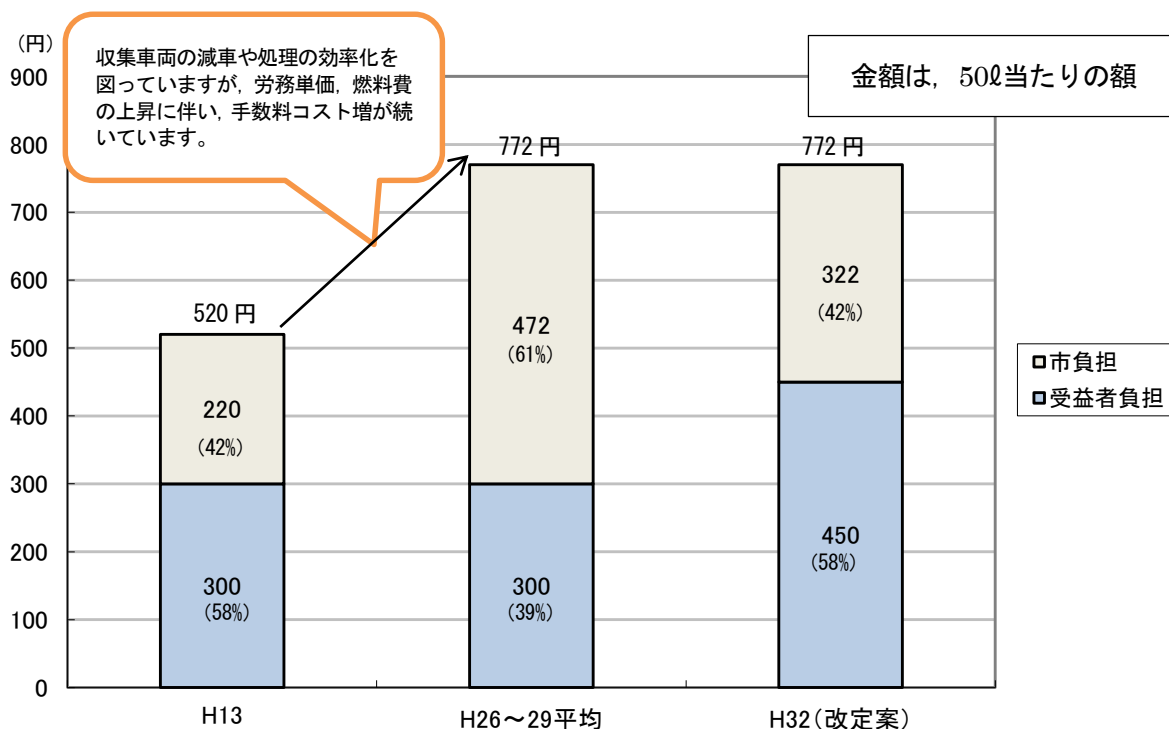
| | H13 (前回改定時) | H26 | H27 | H28 | H29 |
|-----------------|----------------|------------|---------|---------|---------|
| し尿処理量 (kℓ) | 36,738 | 13,272 | 12,343 | 11,962 | 11,503 |
| 手数料コスト (円/50ℓ) | 520 | 762.192 | 766.842 | 767.081 | 792.589 |
| 平均額 (円未満切捨) | — | 772 | | | |
| し尿処理手数料 (円/50ℓ) | 300 | 300 | 300 | 300 | 300 |
| 排出者負担割合 | 57.7% | 39.4% | 39.1% | 39.1% | 37.9% |

3 し尿処理手数料の改定案

平成 26 年度から平成 29 年度までの手数料コストの平均額は，現行のし尿処理手数料の 1.5 倍を超えているので，受益と負担の適正化に向けた取組指針（改訂版）に基づき，激変緩和措置を適用し，し尿処理手数料の改定案を 450 円/50ℓとする。



4 手数料コストに対する排出者負担割合の比較



5 道内主要都市の状況

| | 手数料 | 10当たりの 手数料換算 | 備考 | 減免の状況 |
|------|------------|-----------------|---------------------|-------------------------|
| 旭川市 | 450 円/50ℓ | 9 円/ℓ | 改定案 | 現行どおり |
| | 300 円/50ℓ | 6 円/ℓ | 現 行 | 生活保護、災害、児童保育施設、母子等 |
| 札幌市 | 320 円/27ℓ | 11.85 円/ℓ | | 災害、社会福祉事業者 |
| 函館市 | 300 円/100ℓ | 3 円/ℓ | 下水道区域外 300 円/1 人 | 災害、社会福祉施設、低所得者（生保除く） |
| 釧路市 | 133 円/20ℓ | 6.65 円/ℓ | | 災害 |
| 苫小牧市 | 322 円/50ℓ | 6.44 円/ℓ | 下水道区域外 244 円/50ℓ | 社会福祉施設 |
| 帯広市 | 300 円/50ℓ | 6 円/ℓ | | 災害、市主催事業 |
| 小樽市 | 161 円/20ℓ | 8.051 円/ℓ | 事業所 241 円/20ℓ | 生活保護、高齢者、母子、障がい者 |
| 北見市 | 310 円/50ℓ | 6.21 円/ℓ | | 生活保護、災害 |
| 江別市 | 90 円/20ℓ | 4.5 円/ℓ | | 生活保護、災害 |
| 室蘭市 | 430 円/36ℓ | 11.94 円/ℓ | 下水道区域外 130 円/36ℓ | 災害、公衆トイレ、障がい者（下水道区域外のみ） |

6 工所用仮設トイレ加算の改定について

(1) 工所用仮設トイレにかかる手数料 = し尿処理手数料 + 工所用仮設トイレ加算

(2) 加算額徴収の理由

工所用仮設トイレは、突発的・緊急対応的な収集であり、一般との差別化を図る目的で加算を設定している。

(3) 工所用仮設トイレのくみ取り件数推移

| | H26 | H27 | H28 | H29 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|
| 工所用仮設くみ取り件数 | 1,547件 | 1,462件 | 1,495件 | 1,657件 |

(4) 工所用仮設トイレ加算額の改定案

工所用仮設トイレの平均収集量316ℓの場合に、し尿処理手数料改定案450円/500ℓに現行加算額を加え、500ℓ当たり重量換算をすると約616円となることから加算額を150円/500ℓとする。

なお、収集量5500ℓ以上については激変緩和措置を適用し、加算額を1件1,500円とする。

| 現在 | 改定案 |
|----------------------|---|
| 300円/500ℓ×収集量+1,000円 | 5500未満 (450円/500ℓ+150円/500ℓ)×収集量 5500以上 450円/500ℓ×収集量+1,500円 |

7 手数料改定による影響額

(1) くみ取り量別モデルケース

| くみ取り量 | 現行手数料 (A) | 改定案 (B) | 差額 (B)-(A) |
|--------|-----------|---------|------------|
| 500ℓ | 3,000円 | 4,500円 | 1,500円 |
| 1,000ℓ | 6,000円 | 9,000円 | 3,000円 |
| 3,000ℓ | 18,000円 | 27,000円 | 9,000円 |

(2) 工所用仮設トイレを設置する事業者

工事現場ごとにくみ取り量は異なるが、1件の収集量が2000ℓ未満の場合は、手数料と加算額の合計が現行より減少する（1件の収集量が2000ℓ未満となる工所用仮設トイレが全体の約6割を占めている）。平均では1事業所・1件当たり約1,200円の負担増が見込まれる。

| | し尿処理手数料 | 工所用仮設トイレ加算額 | 収集量1500ℓの場合 | 平均収集量316ℓの場合(平成29年度) | 激変緩和措置適用の収集量5500ℓの場合 |
|-----|-----------|-----------------------------------|-------------------|----------------------|----------------------|
| 現行 | 300円/500ℓ | 1,000円/件 | 1,900円 | 2,800円 | 4,300円 |
| 改定案 | 450円/500ℓ | 150円/500ℓ (550ℓ以上は加算額1,500円/件) | 1,800円 (0.95倍) | 3,600円 (1.28倍) | 6,450円 (1.5倍) |
| 差額 | 150円/500ℓ | — | —100円 | 1,200円 | 2,150円 |

ごみ埋立処分手数料・ごみ焼却処分手数料の改定案について

【手数料改定の考え方】

総原価（廃棄物の処理に要する経費）

総原価＝直接経費（人件費＋物件費＋減価償却費＋起債償還利子）＋管理部門費

「受益と負担の適正化」へ向けた取組指針（改訂版）

【手数料コストの対象範囲】

- ・サービス提供のための直接必要となる経費で、処理等に要する経常的な経費と人件費
- ・人件費は、手数料の徴収事務などに係るものを計上
- ・ごみ処理手数料等は資本的経費（施設建設費等）を加味して受益者負担部分を考慮

【手数料コストの負担割合】

- ・手数料は原則受益者負担100%

対象コスト
（経常的事務経費＋人件費＋資本的経費）

過去の改定経過

控除要素の検討

加算要素の検討

【手数料コストの算定方法】

手数料コスト＝経常的事務経費＋人件費＋資本的経費－控除要素＋加算要素
（平成26年度から平成29年度までの決算額等で算定）

激変緩和措置
（改定前の1.5倍を上限）

他都市との均衡

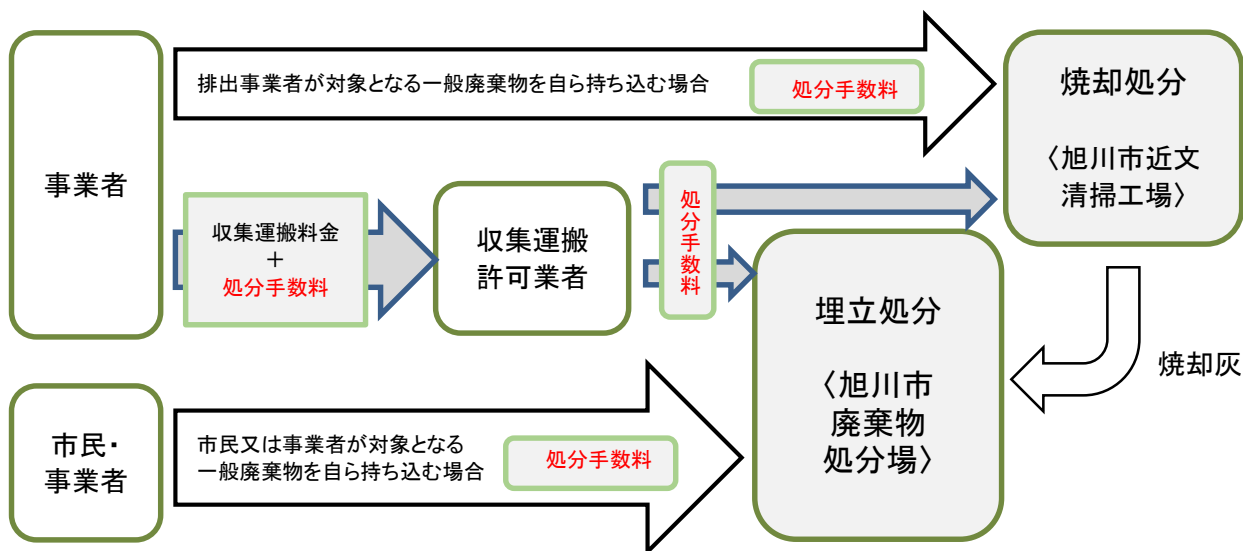
【新・旭川市ごみ処理・生活排水
処理基本計画（改訂版）】の施策
・ごみの減量・資源化の推進
・適正な処理費用の設定

改定手数料
（受益者負担）

1 手数料改定の対象となる一般廃棄物と排出者

| 手数料 | 対象となる一般廃棄物 | 排出者 |
|-----------|---|--------------------|
| ごみ埋立処分手数料 | 家庭の引越ごみ等多量・臨時ごみで自己搬入するもの又は委託された一般廃棄物収集運搬業者が搬入するもの | 対象となる一般廃棄物を排出する市民 |
| | 事業者が排出する燃やせないごみで自己搬入するもの又は委託された一般廃棄物収集運搬業者が搬入するもの | 対象となる一般廃棄物を排出する事業者 |
| ごみ焼却処分手数料 | 事業者が排出する燃やせるごみで自己搬入するもの又は委託された一般廃棄物収集運搬業者が搬入するもの | |

●手数料改定の対象となる一般廃棄物と排出者（イメージ図）



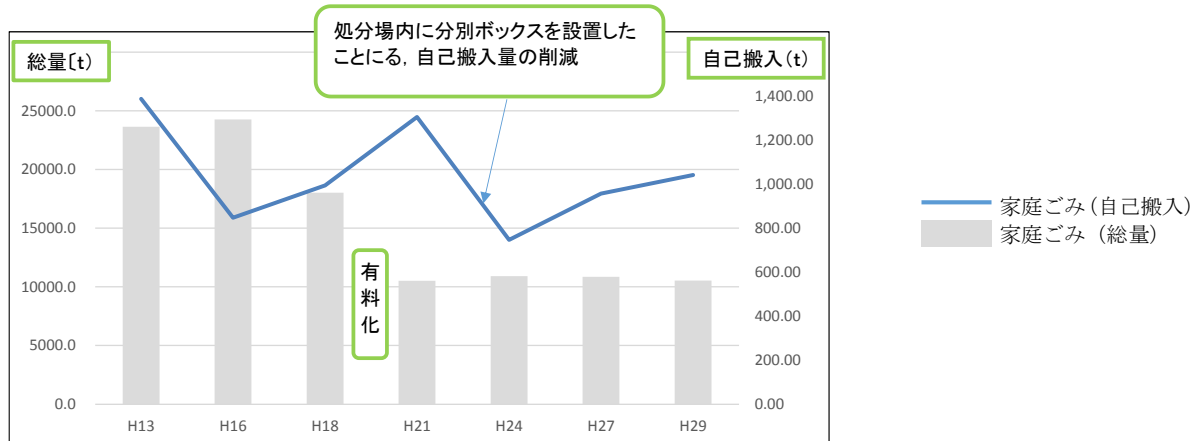
2 家庭ごみ（自己搬入）の搬入量

家庭ごみの埋立処分した総量と市民が家庭の引っ越し等により多量に、一時的にごみを排出し自己搬入した家庭ごみの搬入量の推移を表1及び図1に示す。

表1 家庭ごみ（自己搬入）と家庭ごみ（総量）の搬入量の推移

| | H13 | H16 | H18 | H21 | H24 | H27 | H29 |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 家庭ごみ総量(処分場搬入分) 【t】 | 23,634.80 | 24,261.20 | 18,014.50 | 10,516.20 | 10,908.00 | 10,859.60 | 10,528.60 |
| 家庭系ごみ(処分場自己搬入分) 【t】 | 1,387.60 | 847.09 | 994.34 | 1,304.65 | 746.90 | 956.90 | 1,041.34 |

図1 家庭ごみ（自己搬入）と家庭ごみ（総量）の搬入量の推移



家庭ごみの主な減量・資源化施策

- ・ごみ分別の拡大【随時】
- ・燃やせないごみの有料化【H19】
- ・分別ボックスの設置（資源物や燃やせるごみを埋立しないよう、処分場に分別ボックスを設置した）【H23】
- ・金属類及び木質系ごみの資源化【H24】

3 事業系ごみの搬入量

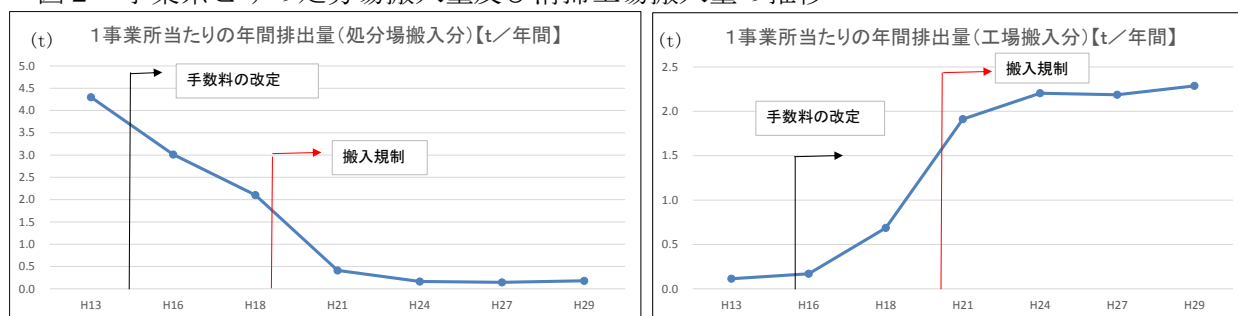
事業系ごみの処分場搬入量及び清掃工場搬入量の推移を表2及び図2に示す。

表2 事業系ごみの処分場搬入量及び清掃工場搬入量の推移

| | H13 | H16 | H18 | H21 | H24 | H27 | H29 |
|-----------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 事業系ごみ(処分場搬入分)【t】 | 74,971.6 | 46,867.2 | 33,181.2 | 6,587.3 | 2,440.4 | 2,179.0 | 2,628.0 |
| 事業系ごみ(清掃工場搬入分)【t】 | 1,975.5 | 2,630.7 | 10,818.4 | 30,635.2 | 32,827.4 | 33,241.0 | 33,282.7 |
| 事業系ごみ合計【t】 | 76,947.1 | 49,497.9 | 43,999.6 | 37,222.5 | 35,267.8 | 35,420.0 | 35,910.7 |
| 事業所数 | 17,431 | 15,555 | 15,774 | 16,024 | 14,892 | 15,201 | 14,558 |
| 1事業所当たりの年間排出量(処分場搬入分)【t/年間】 | 4.30 | 3.01 | 2.10 | 0.41 | 0.16 | 0.14 | 0.18 |
| 1事業所当たりの年間排出量(工場搬入分)【t/年間】 | 0.11 | 0.17 | 0.69 | 1.91 | 2.20 | 2.19 | 2.29 |
| 1事業所当たりの年間排出量(合計)【t/年間】 | 4.41 | 3.18 | 2.79 | 2.32 | 2.37 | 2.33 | 2.47 |

事業所数は、平成20年度以前：事業所・企業統計調査、平成21年度以降：経済センサス-基礎・活動調査

図2 事業系ごみの処分場搬入量及び清掃工場搬入量の推移



事業ごみの主な減量・資源化施策

- ・ごみ分別の拡大【随時】
- ・ごみ埋立・ごみ焼却処分手数料の改定【H15】
- ・処分場における事業系一般廃棄物の搬入規制【H19】

4 手数料コストの算定

(1) ごみ埋立処分手数料

平成 26 年度から平成 29 年度までの需用費や業務委託料などの経常的事務経費，手数料の徴収事務に係る人件費，旭川市廃棄物処分場の減価償却費などの資本的経費の合計から，現在の埋立てに直接関係のない中園廃棄物処分場に係る経費，国庫補助金，土地購入費などを控除して算定したごみ埋立処分手数料コストを表 3 に示す。

表 3 ごみ埋立処分量と手数料コストの推移

| | H15 (前回改定時) | H26 | H27 | H28 | H29 |
|--------------------|----------------|------------|----------|----------|----------|
| ごみ埋立処分量 (t) | 54,319.76 | 3,218.15 | 3,527.10 | 3,801.58 | 3,865.75 |
| 手数料コスト (円/10kg) | 104 | 222.723 | 219.644 | 223.891 | 235.617 |
| 平均額 (円未満切捨) | — | 225 | | | |
| ごみ埋立処分手数料 (円/10kg) | 104 | 104 | 104 | 104 | 104 |
| 排出者負担割合 | 100% | 46.7% | 47.3% | 46.5% | 44.1% |

(2) ごみ焼却処分手数料

平成 26 年度から平成 29 年度までの需用費や業務委託料などの経常的事務経費，手数料の徴収事務などに係る人件費，旭川市近文清掃工場の減価償却費である資本的経費の合計から，売電収入，場外施設への電力・熱供給分，基幹的設備改良工事分の減価償却費などを控除し，当該施設で焼却した事業系一般廃棄物の焼却残渣の埋立処分経費^{*1}を加算して算定したごみ焼却処分手数料コストを表 4 に示す。

(※1 事業系燃やせないごみを搬入した事業者が実際に負担した手数料と同額の 104 円/10kg で算定した。)

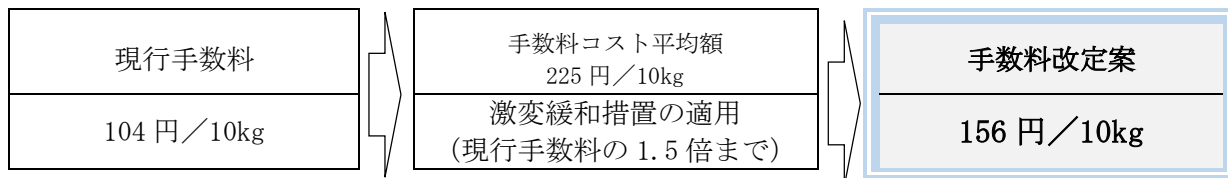
表 4 ごみ焼却処分量と手数料コストの推移

| | H15 (前回改定時) | H26 | H27 | H28 | H29 |
|--------------------|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ごみ焼却処分量 (t) | 1,861.92 | 31,954.60 | 32,755.53 | 32,139.75 | 32,810.52 |
| 手数料コスト (円/10kg) | 133 | 80.214 | 89.749 | 83.334 | 79.314 |
| 平均額 (円未満切捨) | — | 83 | | | |
| ごみ焼却処分手数料 (円/10kg) | 75 | 75 | 75 | 75 | 75 |
| 排出者負担割合 | 56.4% | 93.5% | 83.6% | 90.0% | 94.6% |

5 ごみ埋立処分手数料及びごみ焼却手数料の改定案

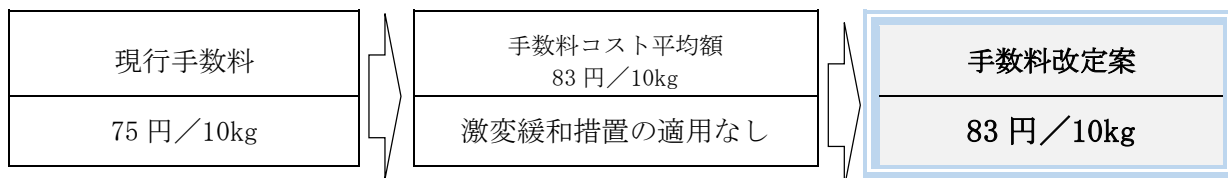
(1) ごみ埋立処分手数料

平成 26 年度から平成 29 年度までの手数料コストの平均額は、現行のごみ埋立処分手数料の 1.5 倍を超えているので、受益と負担の適正化に向けた取組指針（改訂版）に基づき、激変緩和措置を適用し、ごみ埋立処分手数料の改定案を 156 円/10kg とする。



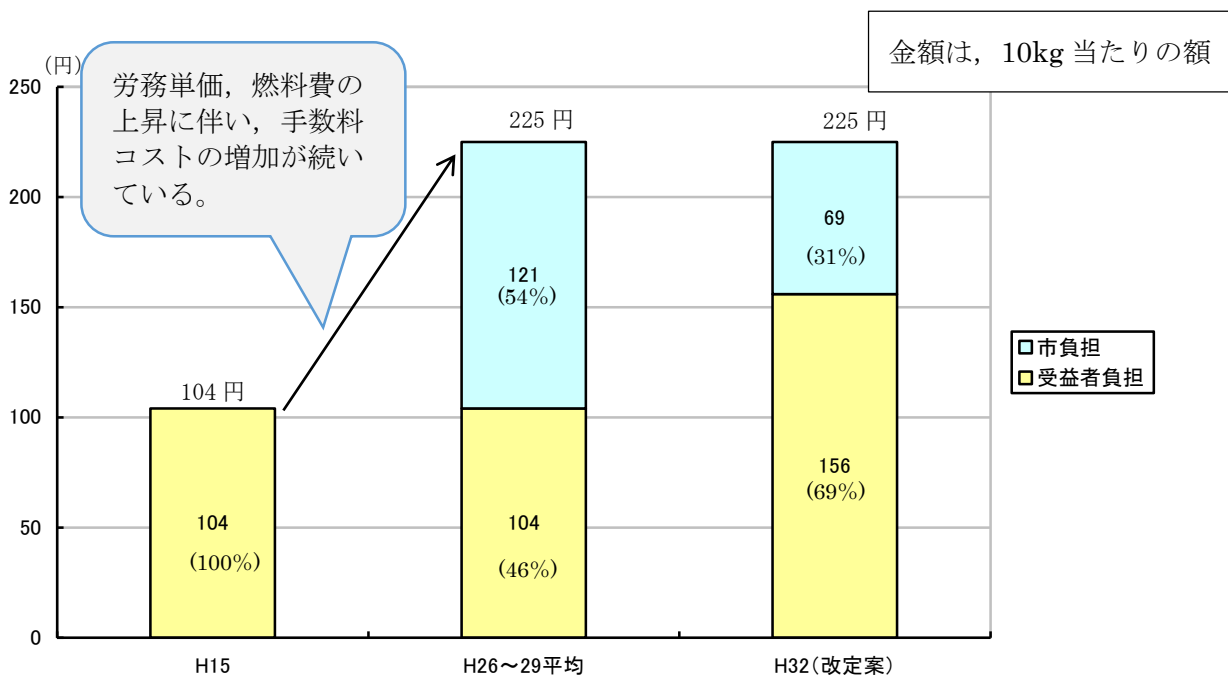
(2) ごみ焼却処分手数料

受益と負担の適正化に向けた取組指針（改訂版）に基づき、平成 26 年度から平成 29 年度までの手数料コストの平均額である 83 円/10kg をごみ焼却処分手数料の改定案とする。

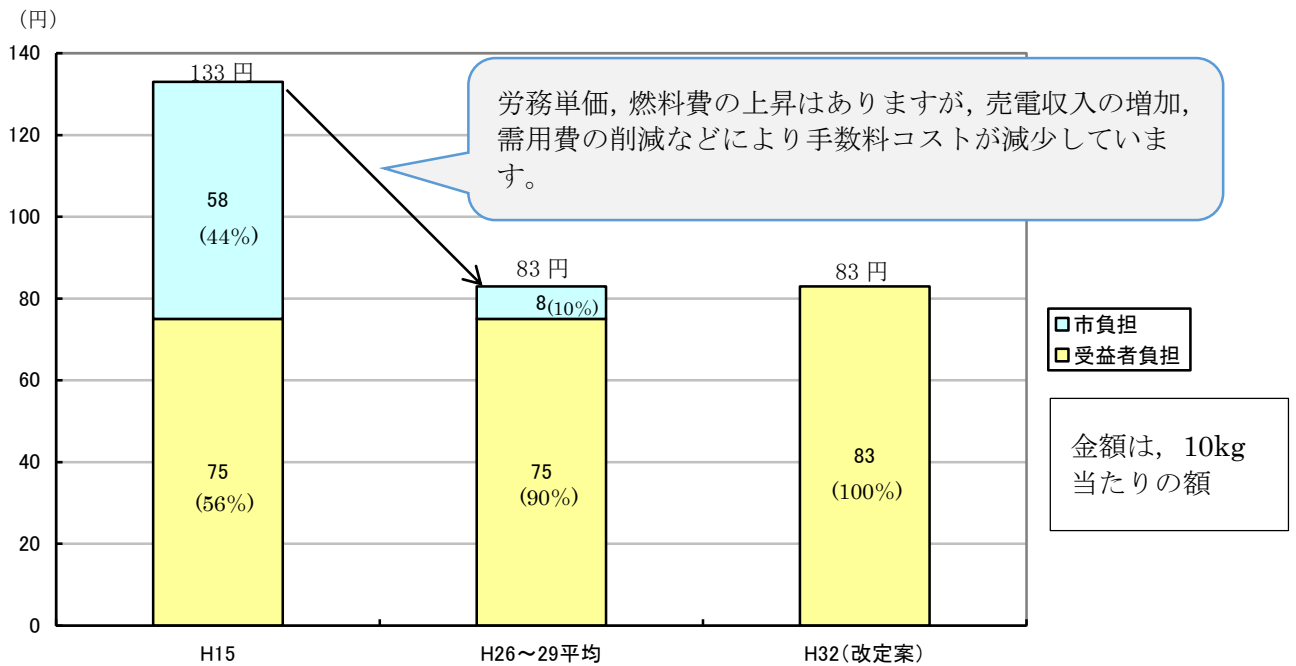


6 手数料コストに対する排出者負担割合の比較

(1) ごみ埋立処分手数料



(2) ごみ焼却処分手数料



7 道内主要都市との状況

| | 10kg ごとの手数料 | | 備 考 | 減免の状況 | |
|------|-------------|----------|----------------|------------------------|-------|
| | 埋立処分 | 焼却処分 | | 埋立処分 | 焼却処分 |
| 旭川市 | 156 円 | 83 円 | 改定案 | 現行どおり | 現行どおり |
| | 104 円 | 75 円 | 現行 | 生活保護, 災害(家庭系ごみ) | — |
| 札幌市 | 200 円 | 200 円 | | 災害(家庭系ごみ) | |
| 函館市 | 101.52 円 | 101.52 円 | 家庭系は 25.92 円 | 低所得者, 災害(家庭系ごみ) | |
| 釧路市 | 82 円 | 82 円 | | 災害(家庭系ごみ, 事業系ごみ) | |
| 苫小牧市 | 140 円 | 140 円 | | 災害(家庭系の火災のみ) | |
| 帯広市 | 170 円 | 170 円 | | 災害(家庭系ごみ) | |
| 小樽市 | 71 円 | 71 円 | ※家庭系直接搬入なし | 生活保護, 災害(家庭系の火災のみ) | |
| 北見市 | 100 円 | 100 円 | 家庭系は 50 円 | 生活保護, 災害(家庭系ごみ, 事業系ごみ) | |
| 江別市 | 110 円 | 110 円 | 家庭系は 90 円 | 生活保護, 災害(家庭系ごみ) | |
| 室蘭市 | 50 円 | 50 円 | 100 kg 迄 500 円 | 災害(家庭系ごみ, 事業系ごみ) | |

※各都市清掃ボランティアは減免

8 手数料改定による影響額

(1) ごみ埋立処分手数料の搬入量別モデルケース

| 搬入量 | 現行手数料 (A) | 改定案 (B) | 差額 (B)-(A) |
|---------|-----------|----------|------------|
| 100kg | 1,040 円 | 1,560 円 | 520 円 |
| 500kg | 5,200 円 | 7,800 円 | 2,600 円 |
| 2,000kg | 20,800 円 | 31,200 円 | 10,400 円 |

(2) ごみ焼却処分手数料の搬入量別モデルケース

| 搬入量 | 現行手数料 (A) | 改定案 (B) | 差額 (B)-(A) |
|---------|-----------|----------|------------|
| 1,000kg | 7,500 円 | 8,300 円 | 800 円 |
| 3,000kg | 22,500 円 | 24,900 円 | 2,400 円 |
| 5,000kg | 37,500 円 | 41,500 円 | 4,000 円 |